



後藤も会派の責任者として提言を取りまとめる。リベラル群馬らしく、若者・女性の視点からの提言も積極的に盛り込む。

## 次年度予算への提言を知事に提出

12月14日、リベラル群馬は次年度予算への提言書を大澤知事に提出。その柱は、①将来世代に負担を残さない県政運営、②人への投資への転換、③「今ある」インフラ・資源を活かす、の3点です。

**財政悪化状況から抜け出し、「人への投資」への転換を提言**

大澤県政となり10年。他県が財政健全化をすすめる中、公共事業費を縮小する中、知事は「7つの交通軸」を掲げ、大型道路整備を中心に「超積極型」予算を組んできました。結果、表のとおり、全国トップクラスだった財政は悪化の一途をたどっています。更には、高崎競馬場跡地のイベント施設建設により、その傾向はますます加速するでしょう。

もちろん、特別支援学校の整備など、「人への投資」に繋がる事業も進めています。その比率は僅かですが、ありません。リベラル群馬は、何よりも将来世代のことを考え、負担を残さず、未来の人材に投資する政策への転換を提言しています。

### 知事への予算提言の主な内容

#### ① 将来世代に負担を残さない県政運営

- ◆全国順位を下げていく財政健全度の立て直し
- ◆高崎競馬場跡地のイベント施設建設を建設コストの落ち着いた適切な時期に見直す

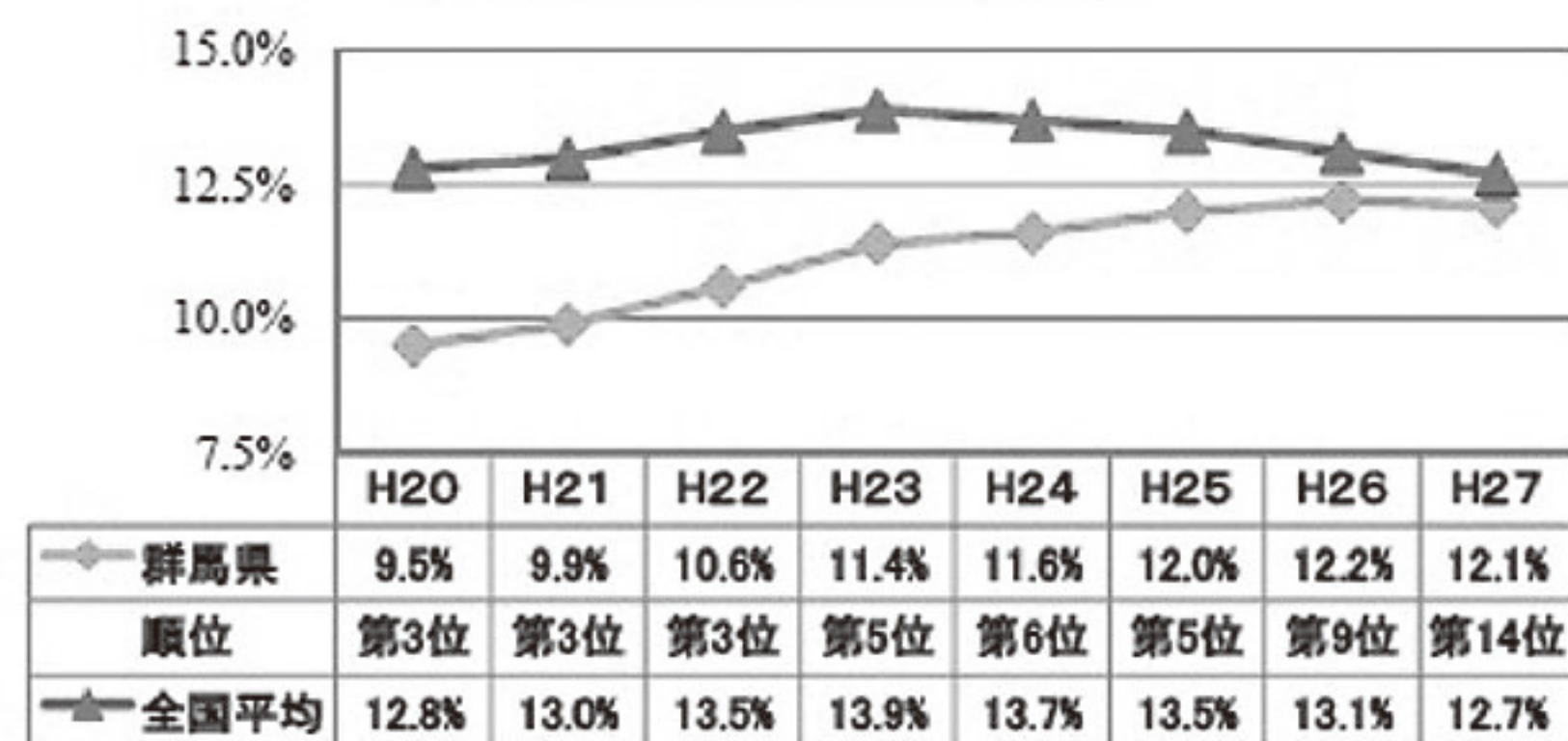
#### ② 「人への投資」への転換

- ◆ジョブカフェ群馬の強化による、若者・女性の雇用促進
- ◆介護人材確保に向けた処遇改善・人材育成策の充実
- ◆県独自の子どもの貧困対策の推進
- ◆全国下位にある障がい者雇用率向上に向けた取り組み

#### ③ 「今ある」インフラ・資源を活かす

- ◆既存の道路・橋梁などを維持管理・改良する予算を、新設よりも優先する公共事業への転換
- ◆豊富な森林・水資源を活用した自然エネルギー事業の推進

実質公債費比率の推移



※表中の順位は、低い(良い)方からの全国順位です。

実質公債費比率とは、借金が県の財政にどれだけ負担になっているかを示す指標。数値が低いほど良い。

## 地域活動報告



〈日高地区〉

| 地元・林恒徳市議と協力し、県道前橋高崎線の危険な歩道部分をフラットに舗装補修。



〈飯塚地区〉

| 町内の要望を受け、マリエール前に横断歩道を新設

## 山村振興には思い切った組織の見直しを ～先進県に学ぶ～

**施策に力強さを欠く群馬県**

本県でも県土の6割を占める山村地域の人口減少や集落の維持は深刻な問題となっています。

しかし、本県の山村振興策は、シンポジウムなどのソフト事業を中心に僅かな予算しかなく、近年ようやく移住促進の取り組みなどが始まりましたが、力強さに欠けており、人口減少の状況を食い止める状況にはなっていません。

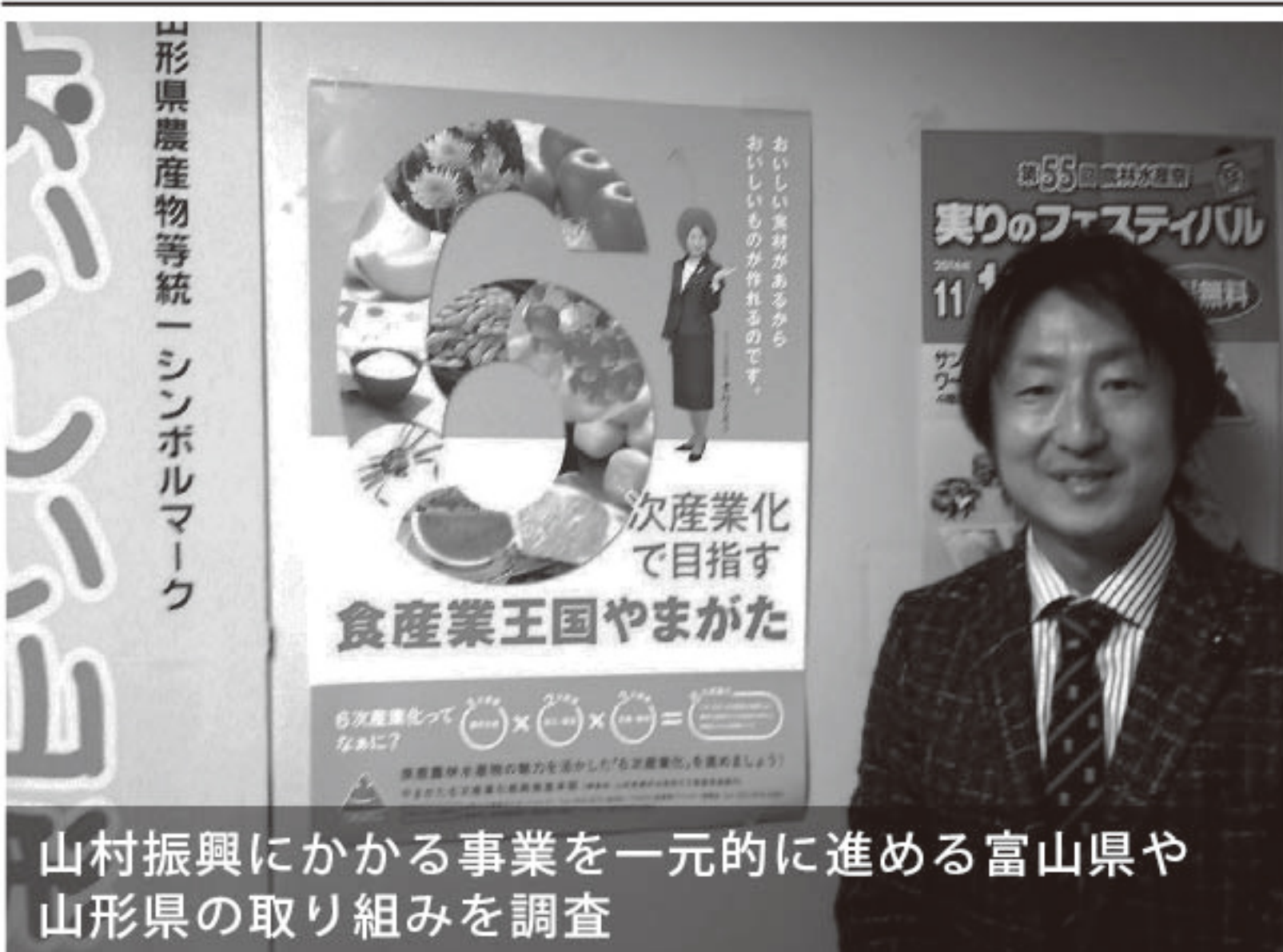
**先進県は担当部署を一元化**

その大きな要因として、本県の山村振興策は、企画部の数名の係が担っているのみで、このことだけでも知事の「本気度」が感じられません。

また、山村地域の産業振興の中心となる農林部門との連携も殆どないため、効果的な施策ができない状況です。

後藤は、山村振興を県政の柱に据えて取り組む先進県の調査を続けており、今年度も富山県・山形県を訪問。

先進県に共通するのは、施策を一元的に行う部署を作っていること。富山県では、農村振興課という部署で、6次産業化などの農林業振興策から移住促進や買い物支援などの集落支援まで全て一元的に行っています。



山村振興にかかる事業を一元的に進める富山県や山形県の取り組みを調査

ています。同様な事業を、多数の部・課でバラバラに行っている本県とは大きな違いがあります。

リベラル群馬の知事への予算提言の中で、先進県を参考に山村振興策の一元化を提言しました。